

TOEIC®スピーキングテスト/ライティングテスト

活用レポート 企業・団体編

株式会社守谷商会

創業1901年。産業用機械装置を専門に扱う老舗商社の株式会社守谷商会では、17年ほど前からTOEIC®テストを活用されています。2007年からは、社員の英語力のさらなる向上を目指し、TOEIC®スピーキングテスト/ライティングテスト(以下TOEIC SWテスト)を導入されました。TOEIC SWテスト導入の目的や、従来のTOEICテストとの併用について、人事部 担当課長の根本圭一郎(ねもと・けいいちろう)さんに伺いました。



株式会社守谷商会
人事部
担当課長
根本圭一郎さん

— 貴社の業務概要を教えてください。

根本さん: 当社は、プラント、電力、製鉄、自動車関連などの産業用機械装置を取り扱う商社で、海外5か国に6つの拠点を持っています。産業用機械装置と言ってもあまりなじみがないかもしれませんが、簡単に言うと、今申し上げた業界の各社が所有する工場等で使われる設備全般を指します。

— 商社ですと、業務の中心は貿易業務になりますか。

根本さん: いいえ、そうではありません。総売上高に占める海外の比率は約15%です。また、貿易部という専門部署があるわけではありません。顧客の多くは国内企業ですが、新規開拓の過程で海外からの輸入品の取引や海外の得意先への輸出取引が増えたり、顧客である日本企業が海外に工場を作ることによって、納入業務や打ち合わせなどの、海外とのやりとりが増える傾向にあります。

— 海外取引専門の部署を設けていないということは、逆に、誰もが英語を必要とする業務に直面する可能性があるということですか。

根本さん: そうです。貿易業務が発生すれば、メール、FAX、電話などのやり取りは英語になります。また、インターネットから情報収集する必要も出てくるので、英語を読んで理解する能力も求められます。海外駐在員の場合は業務のほかに、生活するうえで英語を話すことも必要になりますね。

— 17年ほど前にTOEICテストを導入されています。導入の目的を教えてください。

根本さん: TOEICテストを導入する以前には、社内で英語研修を実施していましたが、研修の成果をなかなか把握できませんでした。そこで、希望者を選抜して行う短期留学制度を新たに設けました。その制度の利用者を選抜するためのレベルチェックを行う目的で、TOEICテストを導入しました。

— 短期留学制度とはどのような内容ですか。

根本さん: ESS(Experience Summer School)といって、現在でも続いている制度です。毎年1月か2月にTOEICテストを実施して、そのスコアを基準のひとつとして選抜を行い、夏期の3か月間程度、アメリカの大学に4名を派遣しています。現在の海外駐在員にはこの制度を利用した人たちが多く、会社にとって意味のある研修制度になっています。また、主に若い年代が選抜対象となるので、若年層社員のモチベーション・アップにもつながっています。

— TOEICテストはほかの目的にも活用されていますか。

根本さん: はい。内定者を対象とした実施、新入社員のレベルチェック、そして、年1回の定期的なレベルチェックに活用しています。また、入社3年目を迎えた社員全員に受験を義務づけています。社員各自が自分の目標を設定し、段階的にレベルアップを目指すよう指示しています。

— 昨年から、TOEICテストと併用する形でTOEIC SWテストも導入されています。新たにこのテストも導入された狙いはどこにありますか。

根本さん: 昨年は公開テストで希望者数名に受験してもらい、今年は団体一括受験申込を利用し、5月の公開テストを数名に受験してもらいました。先ほど申しましたように、当社は貿易中心の商社ではありませんが、業務上英語で話す力・書く力はさらに必要になってくるという認識がありますので、社員の英語力をさらにブラッシュアップさせるためのツールとして活用したい、というのが導入の狙いです。また、TOEICテストのスコアが高い人にはさらなるチャレンジをもらい、英語に興味はあるが普段あまり使っていない人にはよい刺激になれば、という意図もあります。現在留学中の数名には、8月に帰国した後、受験してもらうことにしています。

— TOEIC SWテストを選ばれた理由は何ですか。

根本さん: TOEICテストを長く利用しているのでなじみがあり、テスト内容もわかりやすかったというのが理由の1つです。受験形式なども事前に詳しく説明を受けられましたし、試験会場もあちこちにあって受験しやすいという理由もありました。また、TOEICのテスト全体がそうですが、学校の英語の勉強のためのテストではなく、ビジネスに直結した内容になっていることも選択基準になりました。

— TOEIC SWテストを受験された方々は、受験後どのような感想を持たれていましたか。

根本さん: 「思ったより難しかった」という声が多かったですね。ただ、2007年に始めたばかりで、社内の受験希望者もまだ多くはないのが現状です。今回受験したのは業務上英語を必要とする人たちですが、そうでない人も定期的に受験すればテスト結果のアドバイスを学習に生かしていけると思っていますので、このテストが少しずつ社内に広がっていけばいいと思っています。

— 今後、TOEICテストとTOEIC SWテストはどのように活用されていく予定ですか。

根本さん: TOEICテストは先ほど申し上げた形での活用を続けていきます。TOEIC SWテストについては、来年からは、短期留学制度利用者には留学前後の2回受験してもらう予定です。また、この留学制度の利用者でなくても、定期的に受験し、英語力を伸ばすためのモチベーション・アップに利用してもらいたいと考えています。

<2008年6月取材>

